

平成29年産 コメ通信

第9号（平成29年8月22日）

【発行】

北秋田地域振興局農林部農業振興普及課
（電話0186-62-1835）

刈り取りは、ほ場を観察し適期に作業を！

1 気象経過と生育状況

【気象経過】

- 8月の気温は、3半旬が平年より低くなりましたが、概ね平年並から高く推移し、日照時間は、平年より多くなっています。
- 8月の降水量は、平年より少なく、降雨日も少なくなっています。東北北部の梅雨明けは、平年より5日遅い8月2日頃と発表されました（気象庁速報値）。

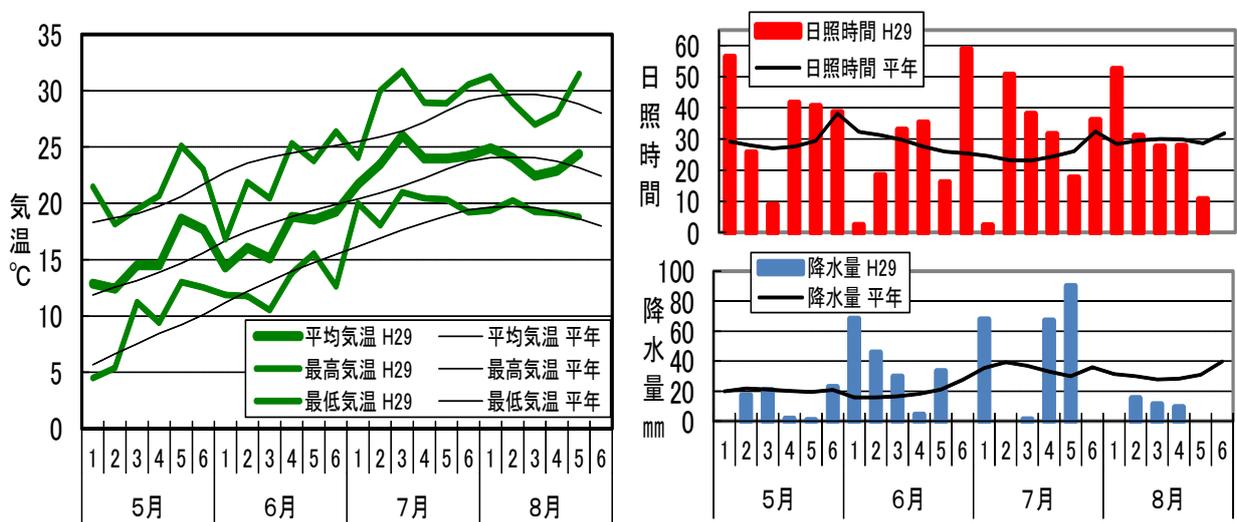


図1 気象経過図（アメダス鷹巣）

【生育状況】

- 8月21日の管内水稻定点調査ほ（9地点、品種あきたこまち）の調査の結果、穂数は平年よりやや少なく、一穂着粒数は平年より多くなったことから、㎡あたり着粒数はやや多くなりました。葉数は平年並となりました。
- 定点調査ほの出穂期は平年より2日遅い8月4日となりました（管内全体の出穂期は平年より1日遅い8月5日）。

表1 定点調査結果（8月21日・あきたこまち）

	穂数 (本/㎡)	葉数 (葉)	着粒数		出穂期 (月/日)
			粒/穂	粒/㎡	
本年	456	12.8	72.7	33,083	8/4
平年	477	12.8	67.0	31,728	8/2
前年	458	12.7	71.8	32,879	8/1
平年比較	96%	±0.0	109%	104%	遅2日
前年比較	100%	+0.1	101%	101%	遅3日

※平年は過去10か年の平均値

2 登熟の向上を図る水管理

- 登熟の向上を図るため、出穂30日後までは間断かん水を実施し、土壤水分を保持しながら稲体の活力を維持することが重要です。特に、開花後25日間は米粒が肥大するため、土壤水分が不足しないように注意します。
- 落水時期は、出穂30日後頃を目安としますが、稲の登熟度やほ場の作業性等を考慮してください。出穂時期が遅くなったほ場や葉色が濃いなど生育が旺盛な場合は、落水時期を遅らせて、早期落水にならないように注意してください。
- ★カドミウム含有米の発生が懸念される地域では、出穂期3週間後（本年は8月25日頃）まで湛水管理を厳守し、カドミウムの吸収を抑制してください。

3 斑点米カメムシ類防除

- 8月8日に病害虫防除所から農作物病害虫防除対策情報第6号が発表され、水田内雑草が発生しているほ場でアカスジカスミカメが多くなっていますので、防除対策を徹底してください。
- 特に、水田内の残草（ホタルイ類等のカヤツリグサ科やノビエなど）がある場合や、イネ科雑草主体の牧草地や休耕田等の発生源に隣接しているほ場では、出穂期24日後頃（8月5日出穂期の場合8月29日頃）にキラップ剤の茎葉散布剤を畦畔を含めて必ず散布します。
- 飼料用米についても、主食用米同様、防除を徹底してください。
- 収穫2週間前までは草刈りをしないでください。

4 刈取適期の判定

- 刈取適期は、品種や栽培方法によって異なります。本年は、田植え時期が遅かったり、生育が旺盛な場合など、出穂時期のほ場間差が大きくなっています。ほ場をよく観察し、積算気温による到達日の目安を参考にして総合的に判断しましょう。

【刈取適期の判定基準】

- ① 籾の熟色：葉や穂首が緑色であっても籾の黄化程度が90%（黄色＋黄白色で）の頃

※熟色の進展：―――登熟の進み―――→

緑(青)色 黄色 黄白色

- ② 出穂後の日数

早生種（あきたこまち等）で出穂後45日前後

中晩生種（めんこいな、ゆめおばこ等）で出穂後50日頃

- ③ 出穂後の積算気温：出穂期翌日から日平均気温を積算した値（上表参照）

早生種 あきたこまち等…………… 950～1,050℃

中晩生種 めんこいな等…………… 1,050℃頃

ひとめぼれ、ゆめおばこ等…………… 1,050～1,150℃

表2 積算気温到達日予想

出穂期	950℃	1,050℃
8月1日	9月13日	9月18日
8月5日	9月18日	9月24日
8月10日	9月25日	10月1日

※アメダス鷹巣データ。

8月22日以降は平年値で計算。

問い合わせはJA、または農業振興普及課まで

HPは「北秋田 コメ通信」で

～次回発行は9月中旬予定～